

ご担当の先生方へ



2025年度

“届けよう、服のチカラ”プロジェクト

事務局通信 Vol.5

(2026.3)

“届けよう、服のチカラ”プロジェクト事務局

〒104-0061

東京都中央区銀座5-14-5

光澤堂GINZAビル7階

(土日祝除く10:00～17:00)

Mail:[fukunochikara@fastretailing.com](mailto:fukunochikara@fastretailing.com)

# “届けよう、服のチカラ”プロジェクトアワード 活動報告会の様子をお届けします！

2025年度は45校にご応募いただき、書類審査で選出された優秀校6校が2025年2月12日に国立科学博物館にてプレゼンテーションを行いました。各優秀校から児童・生徒のみなさんが登壇し、活動内容の説明と活動を通じて得た気づきを自分の言葉で発表しました。

当日の発表の様子は現在アーカイブ配信にてご視聴いただけます。ぜひご覧ください。

## 《 審査員 》

東京大学大学院教育学研究科 教授 北村 友人氏

国連UNHCR協会 広報啓発事業/難民高等教育プログラム担当 天沼 耕平氏

小学校教諭/東京大学 客員研究員 正頭 英和氏



◆優秀校のプレゼンテーションは  
右記QRコードまたはリンクよりアーカイブ視聴が可能です。  
※視聴期限：2026年4月30日（木）





# “届けよう、服のチカラ”アワード2025 受賞校



## 【最優秀賞】

今年は2校が最優秀賞  
に選ばれました ✨

長岡市立宮内小学校（新潟県）  
東京都立小平南高等学校（東京都）

## 【UNHCR特別賞】

新潟県立村上桜ヶ丘高等学校（新潟県）

## 【優秀賞】

私立就実小学校（岡山県）  
私立洛南高等学校附属中学校（京都府）  
和歌山県立和歌山盲学校（和歌山県）

次ページから  
受賞校の実践内容を  
ご紹介します。

受賞された学校のみなさま、おめでとうございます！

# 【最優秀賞】長岡市立宮内小学校（新潟県）

宮内から世界へ！幸せ届けよう！！～わたしたちにできること～

## 児童による発表（小学5年生）

### 【活動にいたるまで…】

#### ①2023年3年生「手をつなごう 大作戦！～わたしたちにできること～」

…はじまりは、たった一人のつぶやきだった…

3年生の1月。能登半島地震が起きた。テレビから流れる被害の大きさに驚いた。わたしは思わず「わたしたちにできることはないかな…」とつぶやいた。

#### ②2024年4年生「カンボジア 文具回収プロジェクト」

社会の学習では、3RやSDGsという持続可能な社会をつくるための考えを学んだ。わたしは、SDGsに興味をもち、詳しく調べ、みんなに「子どものわたしたちにも、できることはある。」という提案をした。活動を探していると、新潟県立大学のサークルの人たちが、カンボジアに文具を送る活動に取り組んでいることを知った。そこで、全校に呼びかけて文具を回収し、カンボジアに送ることになった。集まった1636本の文具は、サークルのみなさんが直接カンボジアの小学校に届けてくれた。

#### ③そして2025年【“届けよう、服のチカラ”プロジェクト】に取り組んだ

「子どものわたしたちにも、できることはある。」これまでとは別の方法で世界の誰かを支える活動をしたい。と考え、本プロジェクトに取り組んだ。出張授業を受け、活動のスタートに、「宮内から世界へ！幸せ届けよう！！」というスローガンを掲げた。私たちのチカラでたくさんの世界のともだちを笑顔にする活動をスタートさせた。

### 【実践活動】

**作戦①学校での回収活動：**全校児童へおたよりの配布・全校集会や放送、ポスターでお知らせをおこなった。

#### 作戦②地域での回収活動

- (1) 中学校区内の学校にお願いしよう：近隣の5校にお願いに行った。どの学校も、「喜んで協力させてください！」と、チカラを貸してくれた。
- (2) 地域のお店にポスター掲示のお願いをしよう：地域60軒のお店にポスター掲示のお願いをした。緊張したが、私たちの気持ちをしっかり伝えることができ、「いい活動だね。がんばってね！」と温かい言葉をいただき、さらにやる気が高まった。
- (3) 地域のお店に回収箱を置かせてもらおう
- (4) 地域のお店で街頭回収活動をさせてもらおう：お店の前で4日間活動をおこなった。買い物に来る方々に自分たちがつくったチラシを直接渡して、わたしたちの思いを伝えることができた。

#### 作戦③自分たちができることがまだある！

- (1) お米を販売した収益金を輸送費として寄付したい！：学校田で育てたコシヒカリを販売し、その収益金を子ども服の輸送費としてUNHCRに寄付することにした。また、難民の方々の厳しい生活を知り、支援物資も届けたいと考え、ユニセフの支援ギフトでワクチンセットや栄養治療食、浄水剤を送った。
- (2) 服が送られる予定の国のことをもっと知りたい！5,707枚の子ども服を集めることができたが、送られる国についてよく知らないことに気付いた。そこで、元JICA海外協力隊としてシリアに派遣された方からお話を聞いた。シリアは、以前は日本よりも平和な国だったものの、内戦によって町が破壊され、今では世界最大規模の難民を生み出す国になっていることを知った。動画で内戦の様子も見ていただき、大きな衝撃を受けた。さらに、シリアの人々が「世界は現状を知っているのか。どうして助けてくれないのか」と感じていることを知り、私たちにできることは何かを改めて考えるきっかけとなった。

### 【一年間の活動を通して、わたしたちが学んだこと】

“子どものわたしたちにもできることはある”ということだ。一人ひとりのチカラは小さくても、みんなのチカラを集めれば大きなチカラになり、周りの人たちを笑顔に、幸せにすることができる。思いを伝えれば応えてくださる地域の方々がいることを知り、私たちは宮内の地域の方々に支えられているのだと感じた。多くの支えのおかげで目標を達成することができ、感謝の気持ちでいっぱいである。この活動を通して、ふるさと宮内がさらに大好きになった。



### 一年間の活動を通して、わたしたちが学んだこと



# 【最優秀賞】長岡市立宮内小学校（新潟県）

○学年：小学校5年生 85名  
○活動の枠組み：教科（具体的に：総合的な学習の時間・国語・図工・社会）・児童会・その他

## 活動詳細

### ①地域の強みを活かしながら活動に取り組むことができているか

4年生の文房具を回収し、カンボジアに届けた活動をふまえ、5年生になった子どもたちは「今年も自分たちでできることで誰かを笑顔にしたい」という思いをもち、「届けよう、服のチカラ」プロジェクトをスタートさせた。今年には校内中心ではなく、地域にも協力を呼びかけ、多くの服を集めて、「難民の人たちを笑顔にしたい」という願いをもつようになった。中学校区連携の取組を生かし、近隣の5校に回収箱を設置して協力を依頼した。また、ポスターやチラシ、宣伝動画を作成して各校に呼びかけた。さらに、児童が直接協力をお願いし、地域のお店に回収箱を設置していただいた。地域のリサイクル活動の取組を生かして街頭回収も実施し、思いを直接伝えながら協力を呼びかけた。その結果、5,707枚の子ども服を回収することができ、達成感を味わうとともに、学区内約60店舗にポスター掲示をお願いする中で、多くの励ましの言葉をいただき、活動への意欲をさらに高めることができた。

### ②難民問題や服のチカラについての情報収集を行っているか

UNHCRの資料を活用して難民問題について調べ学習を行い、自主学習ノートのコピーを掲示することで、子どもたちの関心を高めた。回収した服はシリア・チャド・モーリタニアなどに難民キャンプに送られる予定であることを知り、それぞれの国の現状についても調べた。さらに理解を深めるため、長岡市国際交流課の「世界が先生」事業を活用し、元JICA海外協力隊シリア派遣隊員による特別授業を実施した。

### ③集めた情報を適切に活動に結び付けているかどうか

出前授業や調べ学習で学んだ難民問題について、回収活動のポスターやチラシに掲載し、校内や地域へ広く発信をした。近隣スーパーでの街頭回収では、地域住民に直接思いを伝え、難民問題への理解と協力を呼びかけることができた。また、本校では毎年学校田で収穫した米を販売しており、収益金の使い道を子どもたちに考えさせたところ、「子ども服を難民キャンプへ送る運送費に使いたい」という意見が出た。そこで、収益金をUNHCRやユニセフに寄付することとした。また、世界の子どもたちのために役立ててもらいたいという願いを、米販売のポスターやチラシにも掲載して広く協力を呼びかけた。

### ④活動の「計画設計」と「修正・改善」が適宜行われているか

年間を通して、子どもたちの「思い」が次の活動へとつながるよう、「ひと・もの・こと」との出会いを大切にしながら、計画的に活動を進めた。  
【5月】前年度の「カンボジア文具回収プロジェクト」報告会を実施し、現地に文具を届けた大学生から、贈呈式の様子やカンボジアの地雷問題について話を聞いた。  
【6月】「届けよう、服のチカラ」プロジェクトへの参加を提案し、活動計画を立案。  
【7月】出張授業を実施し、校内回収活動の計画と告知をおこなった。  
【9月】校内回収活動で1,700枚の子ども服を回収した。あわせて地域回収活動の準備を進め、回収箱やポスター掲示場所の選定、依頼活動、ポスター・チラシ・宣伝動画の制作をおこなった。  
【10月】地域回収活動を実施し、回収した服の梱包を開始。

【11月】近隣スーパーで街頭回収活動をおこなった。また、「世界が先生」事業として元JICA海外協力隊隊員の講話を通してシリアの現状を学んだ。さらに、収穫した米を販売し、収益金はUNHCRやユニセフへ寄付した。最終的に、5,707枚（段ボール57箱分）の子ども服を発送した。

### ⑤通常の教科学習との関連づけて学びを深められているかどうか

【国語科】  
告知ポスターやチラシ作成に向けて、読み手に思いが効果的に伝わる文章構成を学習した。校内放送や店内放送、宣伝動画、PR活動の原稿づくりと発表練習を重ね、相手意識をもった表現力を高めた。  
【社会科】  
難民キャンプやUNHCR、SDGs、ユニクロの取り組み、シリアの状況などを調べ、学んだ内容をポスターやチラシに生かした。「未来を支える食料生産」の学習として米作りに取り組み、販売収益をUNHCRへ寄付した。  
【図画工作科】  
校内外あわせて約100枚のポスターや15箱の回収箱を制作。さらに、告知活動で配布する折り紙の服も作成。  
【総合的な学習の時間】  
校内や中学校区内での告知活動、回収活動の計画・準備・実施をおこなった。元JICA海外協力隊シリア派遣隊員を講師に招き、特別講義を実施し、難民キャンプやシリアの現状への理解を深めた。

## 児童の感想

- ◎これまで集めた服たちが一斉に運ばれるのを見て、服を集める活動が終わるんだなあと寂しい気持ちになった。
- ◎この活動を通して、以前よりも自分から進んで行動できるようになった。
- ◎「協力って大事なんだな」と実感し、仲間をフォローできるようになった。
- ◎全ての活動が終わり、一言で表すと本当に楽しかった。将来、難民の方々やたくさんの人を助ける仕事につきたいと思う。



積み込み終了後、「出発式」を行い、これまでの活動への思いと「お願いします。」の気持ちをドライバーに伝え、トラックを見送った。「出発式」の様子は、地元ケーブルテレビ局の番組や新聞に取り上げられ、広く活動を周知することができた。